

## 最近のESRI研究成果より

ESRI - JCER 国際コンファレンス  
「生産性の向上と包摂的成長に向けて」経済社会総合研究所総務部総務課  
大勝 あゆみ

経済社会総合研究所は、本年3月に公益社団法人日本経済研究センターと共催で、キャサリンL.マン経済協力開発機構(OECD)チーフエコノミストの来日に合わせ、国際コンファレンスを開催した。コンファレンスでは、OECDにおいて研究が進められている「生産性の向上」や「包摂的成長」等のテーマについて、マン氏の基調講演に加えて国内の有識者(伊藤元重東京大学教授(経済財政諮問会議議員)、森口千晶一橋大学教授、岩田一政日本経済研究センター理事長)にもパネルディスカッションに参加いただいた。

## 基調講演

## "The Economic Promises we keep - Policies to ensure productivity and inclusive growth"

政策立案者や政治家たちは、若者・高齢者等の国民に対して、例えば良い仕事に就くことができたり、良い医療を提供したりといった一人ひとりがより豊かな人生を送ることを約束(promise)している。この講演は、この約束を守り続けていくために、私たちはどのような問題を抱えているのかを問うもので、以下のような分析や提言の紹介があった。

日本は、製造・非製造業のどちらにおいても生産性の企業差が拡大し、サービス産業ではそれがさらに大きく、また、欧米と比較して企業が持つ現金預金が膨大であるのに十分な投資が行われていない状況がある。この解決には技術革新の波及・再分配や規制緩和などの供給面の対応や、コーポレート・ガバナンスを改善し、企業の意思決定を強化する等の企業統治改革により投資を促進することが必要である。

「包摂的成長」とは、社会のあらゆる層が恩恵を受けることができる成長を意味し、その観点から考えると、日本では正規・非正規労働者間や男女間における賃金差のほか、ワークライフバランスや環境等の生活の質について評価が低いとする。そのうち環境については、環境政策が厳しいとイノベーションや競争力が高まる例を示し、日本には「環境に対する尊敬の念」という重要な文化があることを挙げ、日本は対外的にも競争力を高めることができるとした。

## パネルディスカッション

伊藤氏は、アベノミクスステージ2と題して、現在

必要な政策を説明した。供給側の施策の効果を生かすためには確かな需要が必要とした。話の中でデフレの脱却に至る過程について「五右衛門風呂」に例えた話があった。五右衛門風呂は、日本の昔のお風呂のことで、金属製の風呂釜に水を入れ、釜の下から直火で中の水を温めて入る。釜はすぐに熱くなるのだが、湯が沸くまでに時間がかかる。デフレ脱却とは、湯を温めるための釜(=株価、為替、金利、金融収益、雇用、政府税収)を熱くするだけではなく、中の水(=実際の消費や投資等)を熱くすることだと表した。

森口氏からは、欧米と比較して日本では富裕層の富裕化は観測されておらず、可処分所得でみると最近急に所得格差が広がったとは言えないとの指摘があったが、このことは「格差社会」に敏感な世間の認識との違いを感じた。一方で、高齢化による低所得層の貧困化や、若年者の正規職等への就業等による格差の問題についても触れ、こういった問題を深刻化させないために医療、教育等の機会の平等を押し進めていくことの重要性についても示した。

岩田氏は、人口減少・高齢化が進む中でも中期的に安定的な成長を目指すための方策として、経済市場の開放・国際化に加えて、女性等の労働参加の促進、IoT(インターネット通信)・AI(人工知能)・ビッグデータといった知識資本等を中心とする分野へのイノベーションや投資に注目した。マン氏も触れたように正規労働者と非正規労働者との間の格差を縮小させる姿が望ましいと主張し、「同一労働・同一賃金」等働く人のキャリア形成に関する議論の必要性を訴えた。

マン氏は、さらにパネルディスカッションの発表を受けて、企業の参入や退出が機動的に行われれば、労働市場にも柔軟性をもたらし失業保険等への支出が抑えられることや、金融投資が適切に分配されることを指摘した。こうしたことが、生産性を高めることに繋がるとする立場である。また、「同一労働・同一賃金」については、キャリアを形成する上での平等な訓練の機会を担保することや、税制上等、非正規でいるインセンティブを取り除くこと等が重要であるとし、単純に労働に対する賃金の水準の議論だけに終始するものでないとの留意も示している。

以上のように、今回のコンファレンスでは、市場に柔軟性をもたらすことの必要性和同時に、機会の平等を進めていくことの重要性について確認する発言が多く、一億総活躍社会の実現を進めていく意義を改めて認識することができた。

(当コンファレンスの資料等は以下のHPにて公表されている。<http://www.esri.go.jp/jp/workshop/160301/160301main.html>)

大勝 あゆみ(おおかつ あゆみ)